

皮膚科

皮膚科では、皮膚症状を主体とする外来診療、発熱・疼痛など全身症状を伴う入院診療、主に腫瘍に対する手術を行っています。

外来では蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、掻破性湿疹、疣贅（いぼ）、薬疹、皮膚細菌感染症（蜂窩織炎、丹毒など）、皮膚真菌症（白癬、カンジダ症）、帯状疱疹、単純ヘルペス、水疱症、乾癬があります。

入院治療としては、蜂窩織炎、重症帯状疱疹、リケッチア感染症、水疱性類天疱瘡などの自己免疫疾患、アナフィラクトイド紫斑などの血管炎、乾癬や湿疹に伴う紅皮症、重症薬疹があります。

手術は主に良性腫瘍である、粉瘤、色素性母斑、脂漏性角化症（老人性疣贅）、脂肪腫、日光角化症の他に、基底細胞癌、有棘細胞癌、ボーエン病、悪性黒色腫、乳房外パジェット病などの悪性腫瘍の手術と術後の化学療法を含め、各種治療も行います。

また、他科入院中患者さんの薬疹など中毒疹や皮膚感染症、術後の潰瘍への対処や、週1回の全病棟の褥瘡回診により褥瘡管理もしています。

当院は三次救急指定病院であるため、救急外来から、蜂窩織炎・帯状疱疹・リケッチア感染症などの急性感染症、重症感染症としては、壊死性筋膜炎の受け入れもあります。

皮膚症状は患者さんやご家族でも発見できることから、他科からの対診依頼も多く、臨床的な診察の場面には事欠きません。特に薬疹や化学療法による皮膚障害、褥瘡の診療経験は将来どの科に進んでも役立つと思います。

当科は常勤医3人、非常勤医（週半日）1人の体制で診療に当たっており、医師同士のみならず、外来・病棟看護師、褥瘡回診チームとして、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士とも、チームワーク良く働いています。

少しでも興味を持って頂けたら、見学も可能ですので、連絡をお待ちしています。

